

福壽草

七〇

大 岩 金

お目出度いお正月に際しまして今回は別に事新しいものでもありませんがこの草をえらびました福壽草はまたの名を福神草とか長春菊とか申します。そして新春の床飾りに松、竹、梅、水仙などと共に水盤や、鉢に、又はそれ等の下草として賞玩されるのでありますが、是は只にその名のお目出度いばかりでなく花形も圓滿で色彩もやはらかく、而も花命の長いこと及び寒中花の少ない時にいち早く咲き出でますなどの點でよく萬人に賞揚されるのだらうと思ひます。しかし是が何時の頃からかく新年の花として愛玩されるやうになつたかは不明でありますが花壇地錦抄に始めて祝儀

の花として書いてあるのが文献に現れました始めださうであります。今一つこの花の誇と致します事は數ある花、殊に當今は舶來の花の多い中にくの福壽草は純日本種である事であります。

さて以下に栽培法のあらましを記します。

一、株分法

繁殖は實生に依つて致します事もありますがけれども是は多くは新品種を得る場合の事でありまして一般には株分法に依るのであります。しかしこの株分法とても他の草花程に容易に數株に殖すといふやうにはゆかないのであります。それと申しますのはこの福壽草は比較的芽が出難い性質をも

つてゐるからであります。さてその出難い芽をどうして出させるかと申しますに福壽草の根は莖の下部に二、三段になつて節の周りに長いのが輪状に出るものでありましてその各節には發芽し得る能力をもつて居りますからこの根のついた莖の中間を切斷するのであります。そしてその切口に灰の類を塗りまして腐敗を防ぐのであります。又その時注意せねばなりません事は長いからとて決して根の尖端を切捨てない事であります。應々花戸などが手鉢に配します時に邪魔扱してその先を切る事がありますがかく致します時に開花に影響致します事は勿論ですが時にはそれ自身枯死するやうな事もあります。かく切斷致しました各株は地中 埋めおきますればやがて上部より發芽致します。しかしこの根のある各節を切斷する事なくして地に埋めおきます時は只に最上部のみから發芽して他の節の芽は伸長する事なく休んでゐるので

あります。

時期は土用明十日頃から九月迄に行ふのがよいといはれて居ります。

二、移植

右の期間内に芽分けを致しますには掘り取りますにも切斷するにも亦植込みますにも極丁寧に扱ひましてこの軟かい長い根をなるべく傷つけないやうにして鉢なり床地なりに移すのであります。

鉢に致します時はなるべく深いものを選びまして根を充分に伸ばしてやりたいのであります。又大きさも相當に大きい方がよろしく質も瀬戸鉢よりも素焼鉢の方がよろしいのであります。植ゑ方は他の草花と別に變りはありませんで五寸鉢に株の大小に依り一―三個位を入れ、ばよいのであります。是が群生して居りますからやゝもすれば根と根との間に土が入り難い感がありますからこの點には注意して棒の如きを用ひましてよく根の間

にも土を入れるのであります。かくして植ゑました鉢は十月から翌春五頃月まではなるべく日當りのよい所に置き六月から九月頃まではあまり強い光線の當らない所におくのであります。

床地の場合は鉢植に準じて是に近い状態にすればよいのであります。

三、用土

腐植質に富んだ砂質壤土がよいのであります。その混合の割合は人に依りまして色々ありますが一例を示しますれば腐葉土と壤土とを等量にして是に川砂一を混じたもの又は壤土六、腐葉土二、赤土二の割合に混ずるなどであります。要するに排水のよい軟土がよいやうであります。

四、肥料

開花までに數回油粕の腐汁の稀いものを與へるのであります。植込の際基肥として堆肥の如きを混しておきますれば更によい成績が得られます。

又花謝後に鉢植のものは地に下しまして充分に施肥してやります事も亦來る年の準備として大切な事であります。しかし新鮮な肥料、濃厚なものは却つて根を害しますから注意せねばなりません。

五、開花法

元來福壽草の開花期は早いので一月の下旬それから二月から三月にかけて咲くのが普通でありますからそれではお正月の間には合ひませんから普通にお正月に出して居りますのは簡単な促成開花をさせてゐるのであります。即ち十一月中下旬になりまして産地から持ち來り淺い箱に植込みまして是を木框内に入れ硝子障子を覆ひまして日光に當て夜間は上に銚苔の類を覆ひ保温するのであります尙このやうに致しまして豫定の頃に開花致しませんやうでしたならば數日前に溫室内に入れますならば日ならずして開花するやうになりますので年末始に間に合ふのであります。

六、産地

青梅、佐渡、秩父、北海道などは主なるものであります。わけても秩父は産額も多く樹勢も強健なため東京の店頭にはかなり澤山に賣り出されて居ります。

